

共に創る図書館

～館長対談シリーズ③～

吉田地域・産官学担当理事との対談

吉本 本日は地域・産官学担当の吉田理事から、お話をお伺いします。よろしくお願いします。吉田理事は理事になられて今年で3年目ですが、三好市井川町のご出身で、徳島大学へ来られる前は徳島県の農林水産部長をされていたとお伺いしました。県ではどのようなご経験をされていたでしょうか。



吉田 私は井川町出身で、池田高校が準優勝した時の「さわやかイレブン」の同級生でした。大学卒業後、県庁に就職し、人事系の他、地域振興局や総務部などを回りました。徳島大学へ来て大学の運営に携わりまして、県とはやはり全然違うと感じました。

吉本 図書館に対する印象はいかがでしょうか。また、県庁へ入られてから図書館を利用する機会などはいかがでしょうか。

吉田 本日図書館へ来まして、1階の図書館へ入ってすぐの所に自由にしゃべれる場所があり、私が学生の頃の図書館とは全然違うと感じました。私は大学がお茶の水周辺でしたが、授業の合間の時間に、喫茶店に行くか図書館へ行くかといった具合に使っていました。また、試験前に図書館へ行ったり、あるいは研究室の先生から出された課題について、法律雑誌である「ジュリスト」などの文献を探しに行ったりしていましたが、大学図書館のコピーは他より安かった記憶があります。しかしその頃の図書館は静寂で、私語は禁止というのが普通でした。

県庁へ入ってから仕事の関係では、国会図書館へ、過去の外国との交渉の資料を探しに行った経験がありますが、他には業務上ではあまり関連がありませんでした。

地域の方々が集える場所… 図書館はその「接点」

吉本 地域・産官学を担当されていますので、まず地域に関してお伺いします。徳島という地域における大学図書館への期待についてどのようにお考えでしょうか。

吉田 基本的には大学図書館ですので、図書館は大学のためにあるものだと思いますし、大学の心臓とも言われますように、学生の教育のためにその機能を発揮するものだと思います。しかしそれにプラスして、地域の方々、社会人の方々の集える場所、あるいは空間みたいなものが必要とされていると思います。今日こちらの1階を案内していただいた時、そういう機能も持たせる工夫をされているのかなと感じました。このような機能を強化していくことが、今後も求められると思います。

吉本 地域の方の中には、大学図書館を一般の方も利用できるということをご存じない方が多いですね。図書館としては、地域の自治体や様々な団体との連携ができればいいと考えています。

吉田 確かに大学図書館を地域の方が利用できることをご存じない場合がありますね。地域の団体との連携に関しては、何か相互にされていることはありますか。

吉本 大学図書館と県外の公共図書館とでは、図書の相互貸借を行っています但し利用は少ないと聞いています。また、他県では、近隣の県立図書館で借りた本を大学図書館で返却可能な仕組みができていますので、徳島でもそのような仕組みができるといいと思います。その他、県内の各公共図書館においても、それぞれユニークな活動をされているようですので、何かの形で大学図書館と関連付けて、お互いの支援ができるようになるいいと考えています。

吉田 そういう取り組みができるといいですね。ぜひ私も地域担当としてできことがあれば協力させていただきます。

生涯学習におけるニーズ

吉本 生涯学習におけるニーズとしては、本学では大学開放実践センターで色々な市民向けの公開講座を開講しています。大学図書館では、これだけたくさんの蔵書が揃っていますので、ぜひ生涯学習の場としても利用していただけたらいいと思います。

吉田 徳島大学では徳島県、明治大学との三者間で教育・研究活動の交流と連携・協力に関する包括協定を結んでいます但し、2年前に明治大学の図書館へ行く機会がありました。そこでは最初に図書館カードを作るのは有料でしたが、区民もかなり大学図書館へ通っているようでした。その日も学生も多かったのですが、学生以外の一般の区民の方々も結構いらっしゃったように思いました。

吉本 大学の学生や教職員と、地域の方々とは、図書館という場で接点を見出して、何かのプロジェクトができればいいと思います。例えば教養教育の「学びのコミュニティ」の授業では、地域の社会人の方にボランティアとして教員の補助的役割を担っていただいています。しかしながら、大学から外へ出て、となりますと少ないように感じます。

吉田 そういうものができるといいですね。図書館ではビブリオバトルをされているようですが、学生だけでされているのでしょうか。

吉本 本学のビブリオバトルは学生主体で企画・運営されており、発表者も学生ですが、昨年は徳島市立図書館内のバルコニーで開催したところ、来館されていた一般の方々が興味を持って投票に参加していただき、非常に良かったと思います。そのような地域の方が参加する企画が、大学の中ではまだまだあまりできていないのが実情です。

吉田 同じ小説でも若い時に読んだ印象と、ある程度歳を重ねてから読んだ印象とでは、少し異なりますね。人によってこういう読み方があるのかとか、人生経験によって異なる感想を持って面白いと思います。学生だけでなく、教員とか色々な方と一緒にするのもいいですね。

吉本 以前、徳島市立図書館と一緒に、「社会人 vs 学生」でビブリオバトル企画を実施したことがあります。徳島市立図書館との連携協力事業として、その他に今年から職員交流のための相互研修も行っていきます。今後



地域・産官学担当理事 吉田和文
平成 26 年から徳島大学理事



附属図書館長 吉本 勝彦

は、講演会のような企画を一緒にできないかと話を進めています。

また、昨年度は、総合科学部教授で附属図書館副館長の依岡先生が中心となって、とくしま読書コミュニケーション文化育成プロジェクトを実施し、その中で、徳島県内の図書館や企業の方等、様々な方と一緒に「徳島読書人が選ぶ最高の31冊」を作りましたが、これについても徳島県立図書館や徳島市立図書館でも展示していただいています。その他、蔵本分館では医学の専門書が充実していますので、例えば患者さんが「がん」に関することを調べたいと思った時などにも、ぜひ気軽に来ていただきたいと思います。

吉田 一昨年、地域イノベーション・ミーティングを開催して、地元企業や市民の方に来ていただいたことがありましたが、その際にも、大学というのはちょっと敷居が高いというお話を聞いたことがあります。ある程度大学側から呼びかけるような仕掛けがないと難しい部分があると思います。

有償であっても求められるもの

吉本 次に産官学についてお伺いします。最近は大学図書館だけでなく、鳥取県や岡山県など一部を除いた公共図書館も含めて、どこの図書館も資料費が減っています。今後図書費などの資料費を、外部資金か何かで支援していただくとか、企業から寄附をしていただくとか、何か方法があればと思います。徳島県立図書館では雑誌に提供企業名を書いた帯を付けていたり、徳島市立図書館でも支援企業名を掲示していますが、こちらでも声を掛ければ、何らかの支援をお願いできるのではないかと考えています。

吉田 そういうのも一つの手だと思います。テーマや分野ごとに提携先を分けてするのもいいですね。

吉本 そういう取り組みをすることで、企業からも大学図書館を身近なものに感じていただけるのではないかと思います。

続きまして、大学図書館では本の貸出などの利用は無償で行っていますが、企業側から大学図書館に対するニーズとして、有償でも必要と考えるものについていかがお考えでしょうか。

吉田 図書館でも色々取り組みをされているようですが、企業においてもプレゼン能力を必要とするところは多いと感じますので、有償であっても、そのノウハウを、先生方から教えていただきたいという需要はあると思います。先生方には手間がかかることと思いますが、特別に設けなくても、学生に教えている場で一緒に参加させていただいて、共同で研修できればいいと思います。



吉本 この点に関しては、図書館は、どのような情報をどこから入手したらよいかという学術情報リテラシーの講習会などが得意ですので、このような部分は提供できる可能性があると思います。

徳島大学附属図書館の「財産」

吉本 情報公開、あるいは情報発信についてお伺いしたいと思います。図書館では伊能図等の貴重資料を所蔵しており、利用申込は結構ありますが、これをいかに財産として位置付けるかというところでは難しい部分があります。

吉田 徳島大学の伊能図は拝見したことがありますが、その他に、徳島の歴史的な文書とか貴重な文献に関するリストはありますか。

吉本 徳島大学では伊能図をはじめとする古地図の他、蜂須賀家家臣団成立書并系図やガレノス全集など貴重なものをいくつか所蔵していますが、これらを一覧できるリストとしては現在のところ無いですね。

吉田 産学連携センターでは知財を担当していますが、徳島大学ではどのような知的財産を持っているかというリストを作って公開し、必要とする方とマッチングするシステムを始めています。特に有償となりますとやはりリストがないと利用できません。

吉本 続きまして研究情報の公開としまして、オープンアクセスについてですが、徳島大学では、公的資金で得られた研究成果を、機関リポジトリ等を利用して公開しようという方針を1月に決めました。これから実施していくにあたっての問題として、皆さん面倒だという印象を持ってなかなか取り組んでいただけない場合があります。できる限り手続等も簡素にして、オープン化に協力していただきたいと考えています。学長が重要視している大学ランキングでも被引用数が求められますので、研究成果である論文を自由に見える状況にしておかないと、読めない論文は引用されにくくなります。

吉田 徳島大学のEDB (Education and Research Database) には入っているのでしょうか。

吉本 以前から機関リポジトリとEDBとの連携の要望がありますが、まだできていません。研究者が著者最終原稿の論文PDFをリポジトリ登録システムなどにおき、公開禁止期間が過ぎると自動で機関リポジトリへ登録されるシステムにできれば一番良いと思います。研究者にとっては、研究成果をオープンにすることについてはある程度ご理解をいただけたと思いますが、煩雑さが絡んでくると協力いただくのが難しくなります。

吉田 電子ジャーナルも高騰していますし、研究成果のオープン化は必要ですね。

吉本 電子ジャーナルに関してはどの大学も同じような状況で、高騰化によって維持できないため、購読の一部中止を余儀なくされる大学が増えてくると思います。そのような状況をカバーするためにもオープンアクセスを推進していかないと、出版社に太刀打ちできなくなってしまいます。

図書館からの情報発信

吉本 図書館イベントなどの情報発信についてですが、図書館でも色々なことをやっていますが、教員や一般の方に対してお知らせするという「情報を発信する力」があまり得意ではありません。単にホームページに載せているだけではなかなか見ていただけない状況です。

吉田 ネットの時代ですので、ネットの口コミやSNSなどを活用するのもいいかもしれませんね。あとは学生が多いので、学生に協力いただいて広報するのはいかがでしょうか。

それから、徳島大学は徳島県内の全ての自治体と連携協定を結んでいますので、要望を出していただきましたら、組織的に繋ぐことを進めさせていただきます。

吉本 ぜひ今後利用させていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

